高知県立文化施設事業評価委員会（平成 29 年度事業） 評価表　　高知県立歴史民俗資料館

郷土の歴史文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

（1） 本県の歴史文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する

（2） 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状 況 説 明
高知県の特色あるテーマである長宗我部氏や四国遍路等の資料や、土佐と関わりの深い臨済禅関係の資料を収集した。また、台風被害による文化財の破損等を防ぐため、仏堂 1 宇分の作品の緊急レスキューを実施した。 平成 26 年度以前の民俗資料の収集資料の一部において滞っていた整理分類作業を完了した。 ＜寄贈資料＞ 　土居家資料（戦時資料） ＜寄託資料＞ 　九条袈裟（無窓疎石料　絶海中津相伝）、南国市西島観音堂の江戸時代の仏像、平安末から鎌倉時代の懸仏群、絵馬、四国遍路の納札など（考古資料含）、河田小龍筆の龍虎頭衝立 ＜購入資料＞ 　「戦国大名書状断簡集」1巻、錦絵「豊殿下四國之加藤清正長曽我部信親勇戦一騎討之圖」1 組、錦絵　月百姿「月下乃斥候　斎藤利三」1 枚 ＜保存処理修復＞ ・後藤象二郎の書等、掛軸軸心取替や紐の修理 ・長宗我部家家臣・西村吉太夫所用という当世具足 1 領のうち、角頭巾形張懸兜の錆止めと当世袖一対の補修 ・西畑人形 40 体のうち、3頭の保存処理 ・刀剣は学芸員が継続的に手入れを実施、研磨や短刀拵えの再調整を実施 ・登録文化財味元家住宅主屋 1 棟は囲炉裏に 6 回火を入れ、台風時はワイヤーで固定 ・民俗写真資料の白黒フィルムのカビ取り等の保存作業を90本行った。 ＜複製品の製作＞ ・「後藤象二郎湿板写真」、「山内容堂湿板写真」、「堺表土佐藩士攘夷記」上巻の複製を制作 ＜展示保存環境＞ ・展示室は、ノンエアタイトケースとエアタイトケースを使用して展示し、夏期は 24 度湿度 60%、冬期は 24 度湿度 55%の良好な保存環境の維持管理に努めた。 ・収蔵庫は、資料に適した温湿度で管理（温度は 22 度、湿度 57%、24 時間空調） ・新資料搬入収蔵時は、他の資料に虫害やカビが発生しないように、文化財用の燻蒸ガスを用い、環境に配慮し、燻蒸を実施している。

評価	理 由
A	・資料の収集については、戦時資料や西島観音堂資料、長宗我部関係資料等、後世に引継ぐべき文化財の保護・保存及び禅展等の展覧会の開催を機に貴重な資料が寄託されるなど、意欲的な取組が認められる。 ・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適正な管理を行っており、収蔵資料の修復や複製品の作成等を計画的に行い、資料の維持管理に努めたと認められる。

要求水準ー調査・研究
収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目
（1） 様々な歴史分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進める
（2） 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状 況 説 明
（1）テーマ性を持った調査研究 ＜考古＞ ・特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」に関わる資料調査を実施し、瓦製宝珠が廃仏毀釈を物語る資料であることが判明し、その成果の一部を図録に掲載した。 ・土佐遍路道・札所寺院保存検討委員会で、室戸市の西寺、最御崎寺の伽藍と墓地の事前調査を実施した。 ・中世墓終焉期を探る研究が全国的に実施され、「土佐における中世墓の終焉から近世墓標へ」の変遷について研究会で報告し、書籍に掲載した。 ・徳島市立徳島城博物館にて、土佐の「宗教考古学からみた江戸時代の四国遍路」について、最新研究成果を公表した。 ＜美術・工芸＞ ・特別展図録執筆にあたり作品の調査・研究を実施した。また、香美市、四万十市、室戸市の寺院の仏像・絵画調査を行い、新たな作品を発見した。 ＜歴史＞ ・幕末維新博関連の企画展（4 回開催）に関する調査研究を実施した。「堺事件」に関しては、堺市や関係寺院、観光ボランティア協会と連携した現地調査を行った。各企画展の研究成果は、講演会・講座・シンポジウム・展示解説等で発表した。展示内容については図録を刊行してその内容を記録した。 ＜民俗＞ ・収蔵民俗資料の調査を実施し、それぞれの資料の意義や全体像の把握に努めた。えんこう祭りについては南国市と、高知市東諸木八幡宮の祭礼について高知市と連携した調査を行った。 ・いざなぎ流などについては国際日本文化研究センターや名古屋大学で研究成果を報告した。 （2）長宗我部関係の資料研究・展示 ＜考古＞ ・中世葬送墓制研究会「第 11 回中世葬送墓制研究会　四国地域の中世墓終焉期を探る」において、「土佐における中世墓の終焉から近世墓標へ」で、長宗我部氏関係の墓塔も取り上げ発表した。 ＜歴史＞ ・長宗我部信親や長宗我部元親の義兄弟・斎藤利三の錦絵や、長土元親（長宗我部土佐侍従元親）の署名と花押部分を切り取った断簡が納まった巻物を調査のうえ購入し、長宗我部展示室において公開した。また、長宗我部室の活性化のため、頭形兜や鎧（仙台胴）の優品を集めたテーマ展を2回実施、それぞれ特別解説を行うなど研究成果の発表も行った。 ・高等学校等、外部での講座やセミナーで講師を行うとともに、冊子等に寄稿するなどした。 ・国史跡・岡豊城跡詰への櫓の設置し、週末・祝日にはガイドによる案内実施した。

評価	理 由
A	・企画展に関する調査研究を積極的に実施し、成果を発表していることが評価できる。 ・国史跡　岡豊城跡詰への櫓設置や遺構に関連するコーナー展示の実施、ボランティアガイドによる案内の実施など、長宗我部氏や岡豊城への関心を高めたことが認められる。

要求水準ー展示･公開
これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

（1） 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で 15 万人以上の観覧者を目指す

（2） 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状 況 説 明
＜企画展･特別展＞ ･企画展 4 回･特別展 1 回を行い、関連した講演会･講座･公演･ミュージアムトークなどを実施 観覧者は 34,498 人（特別展 11,564 人を含む）となり、前年度の 23,725 人を上回った。 「幕末の土佐―書跡にみる人物群像―＜後期＞」1/29～5/10 40 日間 4,383 人（29 年度） 「志士幕末を駆ける―半平太らの遺したもの―」5/27～7/2 37 日間 2,200 人 「大政奉還を「象」った男 後藤象二郎 」7/15～9/18 65 日間 5,737 人 「堺事件―150年の時を経て―」1/20～3/25 65 日間 5,150 人 特別展「白隠禅師 250 年遠諱記念 今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」 10/14～11/26 44 日間 11,564 人 ＜通常展＞ 観覧者数 91 日間 5,464 人 ･レファレンスサービスとして、受付に基本資料等を配置し、受付職員が対応できる体制を構築している。 また、体験学習室には郷土史や子ども向けの書籍を配架している。 ･電話やメールなどによるレファレンス実績 考古 3 件･約 3 時間、歴史 15 件･約 7 時間、民俗 63 件･約 48 時間、美術工芸 3 件･約 4 時間 ･学術研究を目的とした資料の撮影･調査研究閲覧実績は 35 件で、約 78 時間であった。 ＜ミュージアムトーク開催実績＞ 「幕末の土佐―書跡にみる人物群像―」 2回 87 人 「志士幕末を駆ける―半平太らの遺したもの―」 4回 85 人 「大政奉還を「象」った男 後藤象二郎 」 3回 93 人 「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」 3回 138 人 「堺事件―150年の時を経て―」 2 回 56 人 コーナー展 「谷作七のみた戊辰戦争」「干支の玩具ー戌」 1 回 6 人 「干支の玩具ー戌」「国史跡 岡豊城跡」 1 回 5 人 その他 団体･個人からの予約による展示解説については、解説員、学芸員が対応している。

評価	理 由
A	･「志国高知幕末維新博」に関連した企画展4展の実施や公開承認施設を生かした禅文化の特別展を行ったことで、観覧者数が目標数を上回るなど、努力が認められる。 ･県立の歴史系総合博物館として、様々なレファレンスや調査要請に対し丁寧に対応していることが認められる。

要求水準ー教育・普及
様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目
（1） 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
（2） 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講座などを開催する

状 況 説 明

＜企画展関係教育プログラム（ワクワクワーク）の実績　合計1,564人（平成 28 年度357人）＞
・企画展「大政奉還を「象」った男　後藤象二郎　」
「蒸気船ぽんぽん夕顔丸を作ろう」　参加者　16人
・特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」
「禅語を筆で書こう（大人向け）」　参加者　11人
「色んなかたちを筆で書こう（こども向け）」　参加者　14人
「白隠さんダルマ絵付け（大人向け）　参加者　15人
「ダルマさん絵付け（子ども向け）」　参加者　24人
「呈茶席」　参加者（利用者）1,059人
「イス坐禅体験」　参加者　327人
・その他
「龍馬像をつくろう」　参加者　16人
「土佐和紙漆喰張り子いぬの絵付け」参加者　27人
「コマ回し体験」　参加者　55人
＜学校教育関係の取組＞
・体験学習：火おこし、勾玉作り、甲冑体験　14 校　997 人
・学校授業と連携したポイント解説　20 校
常設展示・企画展自由見学　16 校
ビデオ学習　7 校
岡豊城跡見学　9 校　（来館学校実数計　34校　2,120 人）
・出張授業：21 回　304 人　（大学の授業を含む）
・職場体験学習：6校　13人
・バス送迎授業：なし
・大学との連携：博物館実習4校（4 人）を 7 日間受け入れた。
・国立大学で日本文化史・博物館資格に関する授業を非常勤講師として講義した。

＜講演会、公演、講座＞
・講演会
特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を超えて―」
臨済宗相国寺派管長　有馬頼底氏　「禅と日本文化」　150 人
全生庵住職　平井正修氏　「禅的思考―今を生きるために―」　155 人
企画展「堺事件―150年の時を経て―」
元堺市博物館学芸員　吉田豊氏　「堺と土佐―遣明船から堺事件まで―」 100 人
・講座
企画展「幕末の土佐―書跡にみる人物群像―」
木村幸比古氏 「筆跡からみる志士のこころ」　60 人
企画展「大政奉還を「象」った男　後藤象二郎　」
当館学芸員　石畑匡基　「土佐藩の職制　初級編　土佐藩士の出世」　46 人
当館学芸員　石畑匡基　「土佐藩の職制　上級編　土佐藩における仕置役とその職掌」15 人
特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を超えて―」

花園大学国際禅学研究所　瀧瀬尚純氏 「土佐より視る日本臨済禅の流れ」130 人
企画展「堺事件―150年の時を経て―」
当館学芸課長　野本亮 「展示解説　堺事件の見所紹介」(2 回) 75 人
・公演
貫汪館館長　森本邦夫氏　　「大石神影流剣術演武」(2回公演)　　90人
上方講談師　旭堂南海氏 講談「大坂土佐藩邸、生死を決めるくじ引き」 126人
※鼎談同時開催：旭堂南海氏、中岡慎太郎館学芸員 豊田満広氏、 当館学芸課長　野本亮

＜職員の派遣＞
高知市立中央公民館「いきいきセカンド☆ライフ講座」、野市史談会、堺市立中央図書館特別講演会

＜子どもたち等に来館してもらう取組＞
・ワクワクワーク(子ども歴史教室)の開催
龍馬像をつくろうや蒸気船ぽんぽん夕顔丸を作ろう、絵付けなど　開催　1,564人
（うち、呈茶席体験　1,059人）
・季節のイベント開催
れきみんの日(館内クイズラリー、湿板写真実物公開など) 447 人
れきみん夏の子ども博物館(ワークショップ、屋台、ものづくり教室など)　4日間　1,648 人
れきみんのお正月(ワークショップ、講座、書道パフォーマンスなど)　　2日間　378 人
・クイズラリーの実施及び参加
長宗我部ラリー　　285 人
南国フォトロゲイニング　　開催なし

評価	理 由
A	・企画展関連の教育プログラムの実施や、体験学習や出張授業等の開催により、子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させていることが認められる。 ・季節のイベントや楽しみながら歴史を学べる様々なワークショップを開催しており、館の創意工夫が評価できる。

要求水準ー広報

評価項目
土佐の歴史に関する積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明
（1）紙媒体・ネットを通じた広報 ・館のリーフレットや『催し物ご案内』を観光案内所、旅館、ホテル、コンビニなどへ配布し、県民や観光客の目に触れるようにしている。 ・新聞やテレビだけでなく、HPなどネットを活用した広報も実施している。（館HPアクセス数 44,673 件） ・『ほっとこうち』、『るるぶ』などにも掲載し、広報に努めている。 ・企画展開催前に報道機関に情報発信し、企画展の取材につなげている。 また新資料などを企画展で紹介する時は、事前にマスコミに情報発信し、取材へつなげている。 ・特別展では、新聞の特集記事や新聞広告も掲載した。 ・企画展・特別展観覧や櫓来場を対象に「れきみんスタンプラリー」を実施し、年間通して PR。 （2）イベント等における広報活動 ・大分県の大野川合戦祭りに南国市観光協会とともに出店し、グッズや当館の広報を行った。 ・第４回ご当地キャラまつり in 須崎（高知県）にも出店し、当館のPRをした。 （3）学芸員による広報活動 ・直接企業に出向き、館のチラシなどを配布し、家族での来館につなげている。

評価	理 由
B	・特別展では、新聞特集記事や広告の掲載を実施し、積極的な情報発信により、県内外に県の魅力を広めていると評価できる。 ・年間を通じて、地域のコンビニの協力を得て、チラシ等を常時配置している。 ・「れきみんスタンプラリー」を実施するなど、リピーター獲得のための新たな取組に努めていることが認められる。

要求水準ーその他

評価項目
（1） 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る
（2） 岡豊山周辺を歴史的好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状 況 説 明
（1）県内外の他の博物館等と連携した事業の充実 ・県内のリニューアルする施設の資料調査や展示等について協力した。 ・寺院の文化財の保存や環境、盗難について相談を受け、協力をした。 ・特別展「今を生きる禅文化」では、県内外の大学博物館や寺院と連携し、作品を展示した。 ・四国地区博物館協議会（徳島県立博物館で開催。副会長館）の総会に出席。 ・こうちミュージアムネットワーク（幹事館）の総会・情報交換会に出席。 ・江戸東京博物館、高知県立高知城歴史博物館等への資料貸出等に協力。 県立坂本龍馬記念館の収蔵資料及び備品の一部約 700 点を館収蔵庫で管理した。 ・物部地域との連携 第６回「旧大栃高校民俗資料一般公開」を実施し、民具を公開。「麦の教室」も開催。県立大学との公開調査、麦の引き臼実演、物部空中散歩など催しを実施し、２日間で 404 人の来場者があった。 （2）岡豊山周辺の取組 ・長宗我部氏、国史跡・岡豊城跡の文化資源の活用 長宗我部氏の資料の保存を図りながら、展示内容が充実するように複製品を製作、保存処理も行うなど展示替えができるようにし、考古展示も入替、県内外の歴史ファンに親しめる展示にしている。岡豊山詰に櫓を上げ、公開している。 ・国史跡・岡豊城跡を活かした地域住民との連携 「岡豊山さくらまつり（土佐の食１グランプリ）」、「長宗我部フェス」、「夏の子ども博物館」を土佐のまほろば地区振興協議会、地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャー・サポーターの協力も得て実施した。岡豊山を起点に周辺の史跡をめぐる「土佐のまほろばウォーク」を土佐まほろば地区振興協議会のガイドにより実施した。 ・長宗我部ゆかりの地との連携 「長宗我部フェス」と「長宗我部まつり（高知市・若宮八幡宮」を「長宗我部の陣」として連携し、共通チラシを作成するなど効果的な PR に努めた。「長宗我部まつり」へ甲冑を貸し出すほか、「若武者もとちか君」を派遣するなど、広報活動も行った。

評価	理 由
A	・県内の博物館等の資料調査、展示、保存等への協力・連携に努めたことが認められるとともに、特別展の開催に当たっては、県内外の大学博物館や寺院と連携したことも評価できる。 ・岡豊城跡の詰に櫓を上げ、公開し、「城跡」としての魅力を発信したことは評価できる。

要求水準ー施設管理
施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目		
(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守　・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績　・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成　・職員研修

状 況 説 明
＜社会的責任＞ ・始業・終業時刻の遵守、時間外勤務の事前命令の徹底等や「業務日誌」等への各人の勤務時間の記載など、適正な労働時間管理に努めた。 ・個人情報の管理については、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規程により適正に運用。 ＜建物や設備の管理＞ ・展示室内の空調等の機械設備は業者委託し毎日点検している。 ・館内外の清掃は業者に委託し実施している。 ・館内外警備は 24 時間警備を委託し、毎朝警備報告を提出させている。異常がある場合は、夜でも職員と連絡ができる体制を組んでいる。大雨時には、夜間に特別巡回も指示している。 ・エレベーター・ドアの点検も実施。 ＜危機管理＞ ・警備・空調委託業者と自衛消防団を組織。「風水害等の配備基準及び職員体制」により大雨などには対応している。台風前は職員による点検を実施。火災・地震に関しては、年1回消防署の立会のもと避難訓練・消防訓練を実施。年2回職員による消防点検も実施。盗難等危機管理対策として、エントランス・展示室内にカメラを設置し、警備室・総務事業課で監視できる体制を取っている。防災関係のマニュアル及び緊急連絡先一覧(業者含)を作成し配置。燻蒸庫定期点検を実施。 ・文化財の防犯については、文化庁が主催する「国宝・重要文化財防災・防犯対策研修会」に毎年職員を派遣し最新の防犯体制の情報を取得している。

評価	理 由
B	日頃から危機管理意識を十分に持ち、非常時に速やかな対応がとれる体制を構築している。

評価項目	
（2）利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映　自己点検、評価の状況　・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上　・研修の実施状況　・その他サービス向上の取り組み

状 況 説 明
・来館者アンケートを実施し、職員間で回覧し情報共有と業務改善に活かしている。 ・アンケートや電話等によりいただいた声には、可能な限り対応するよう努めている。 29 年度対応例： ①入口が分かりづらい　→　立看板を設置、催事時は職員・ボランティア配置 ②説明パネルの文字が小さすぎる　　→　パネルの文字を拡大 ③岡豊山への階段が滑るところがある　　→　石階段にセメントを入れ歩きやすくした ④第 1 駐車場の上にも駐車場があることを表示してほしい　→　第 1 駐車場に立看板を設置 ⑤仏像の企画展をやってほしい　→　企画展を検討中 ・職員の専門性の向上 学芸員としての専門性の向上のため、日々の資料の取扱いについては研鑽をしている。 学芸員は、県内外で研修・調査・研究、学会等に参加している。 ・研修の実施状況 文化庁主催の公開承認施設会議や国宝、重要文化財（美術工芸品）の防災・防犯対策の研修 歴史民俗資料館専門職員研修・救命講習（全職員）、公務員倫理職場研修・人権問題職場研修・会計研修 ・脳梗塞等により岡豊山で動けなくなった来場者への救助経験を生かし、岡豊山への来場者がゲートしまる時間を過ぎても車に戻らない時は、警備員と共に確認作業に入り、警察への連絡し対応する。 29 年度は、救命 2 名。

評価	理 由
B	サービス向上に向け、利用者からの要望・意見に迅速に対応していることが評価できる。

評価項目		
（3）利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状 況 説 明
・観覧者数は年平均目標 30,000 人を上回り、34,498 人となった。（昨年度 23,725 人　対前年度比 145%） ・岡豊山歴史公園（国史跡・岡豊城跡）への来場者は 39,473 人、岡豊山さくらまつり約 12,000 人（年度内３日間開催）、長宗我部フェス1,100 人、で計 52,573 人となった。 （昨年度 23,832 人　対前年度比 220%） ・学校来館数は、34 校で 2,120 人の利用があり、延べ 66 校、延べ人数 4,608 人 （昨年度 2,305 人　対前年度比 199%）

評価	理 由
A	・観覧者数については、観覧者目標を超える実績となっている。 ・岡豊城跡への来場者や学校来館数は増加しており、来場者増に向けての館の努力が認められる。

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み　・経費削減の取り組み

状 況 説 明
・観覧料収入は、8,473 千円(特別展 4,772 千円を含む)で、28 年度 4,347 千円を上回っているが、歴史民俗資料館が設定した特別展観覧者の目標数を達成できなかったため、予算対比 89%となった。 ・特別展では、外部資金として 2,776 千円の助成金の交付を受けた。((独)日本芸術文化振興会) ・経費の中で費用のかかる電気料については、不要部分の消灯・間引き・LED化、バックヤードの消灯などに努めるとともに、電気代の削減に努めた。 ・グッズ等販売では、県内外のイベントにも参加。併せて企画展広報も実施した。

評価	理 由
B	経費削減やグッズ等の販売に努めたことが認められる。

総合評価

評価	理 由
A	・「志国高知幕末維新博」に関連した企画展を開催し、観覧者数は前年度を大幅に上回っている。 ・企画展開催にあたっては、調査研究の成果の一つとして図録を刊行することができている。 ・特別展「白隠禅師 250 年遠諱記念　今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」では、国宝・重要文化財を含む高知初公開の資料を多数展示した。また、展覧会を契機に新たな寄託資料を受けることができた。 ・懸案事項の民俗資料整理については、整理・分類作業が終了した。 ・教育普及関連では、高等学校で授業を受け持つなど、継続的な事業展開ができている。 ・地域の関係団体と良好な関係を築き、行事・イベントを開催しており、地域活性化への貢献が認められる。 以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。